



DV被害女性と同伴子の一時避難施設・シェルター内部。支援によって基本的な生活をおくることができる。(写真上・下)入所中、同伴子は学校や幼稚園に行けないので、保育士がケア。「FTC」のコーディネーターとカウンセリングの打ち合わせをしていた(写真左)



## 市民活動の新たな挑戦

いろいろな悩みや不安、難題を抱える人たちを支え、問題解決に積極的に取り組む市民活動は各地ですそ野を広げている。ファイザー製薬ではヘルスケアの分野の市民活動を支援し、その社会的認知を高めることを目的に、2000年から助成プログラムをスタートさせた。過去の実績にとらわれず、活動のユニークさと将来性に評価の重点を置いているのが特徴。2001年度の助成対象となった各プロジェクト(左頁参照)を中心に、9回連続(今回は5回目)でレポートする。

# 安全を確保し、生活を支援するほか 深い心の傷の回復を継続的にケアする

FTCシェルター

## DV被害女性及び同伴子の緊急一時保護事業(東京都)

配偶者やパートナーからの暴力、いわゆるDV(ドメスティック・バイオレンス)が、日本でも社会問題化したのは、ここ数年のことだ。だが、これは実態が表出しただけであって、DVについての相談はすいぶん前から多く寄せられていたという。

「90年代半ばには、殴られてケガをした」といった相談を多く受けていました。なかには「50年間ずっと暴力を受けている」といったひどいケースもあった。でも、相談員は話を聞くだけで何もすることができなかったのです。

女性センター相談員のコーディネーターだった平川和子さんは、DV被害者の緊急保護施設の必要性を感じ、相談員たちとともに「FTCシェルター」を設立。97年3月のことだった。以来、5年にわたって単身・母子家庭合わせて約120組を保護、支援している。

被害者の緊急的な安全確保がメイン

の活動だが、幼い子供を抱えながらの長い年月を生きていく被害者のために、就職や資格の取得、病気などで働けない人への生活保護申請といった生活支援も行っている。

また、設立メンバーがカウンセラーと相談員である特徴を生かした心のケアプログラムも提供。シェルター避難してきた被害者は例外なく、長期間の暴力や虐待によって心の傷を負っている。恐怖と絶望感のなかで自分を否定し、感情を麻痺させることで生き延びてきた現実が、その背景にはある。

「被害体験も含めて自分のことをありのままに話し、また、同じような体験をしてきた人たちの話を聞くグループカウンセリングや個人カウンセリングを継続的に行うことで、人間としての尊厳を取り戻し、自分の生き方を決めていけるようになります」

01年10月から「DV防止法」が一部



FTCシェルター代表の平川和子さん。「安全保障の問題も含め、DV被害者の切実な声を社会に届けるのが私たちの役目です」

施行されたことで、接近禁止命令(加害者の被害者への接近を一定期間禁止する)などの保護命令の申し立てが可能になった。「FTCシェルター」でも被害者への法的な支援を行っているが、生命の危機にさらされる暴力以外には適用されないという法を逆手にとり、言葉の暴力や経済封鎖などにDVの質が変わってきているという。

「そういう意味では現在の法律はまだ不完全で、DV被害者を取り巻く環境も整備されているとは言いがたい。全国のシェルターや公的な機関とのネットワークをさらに広げて、DV問題への意識が深まるように働きかけていくつもりです」

# こんな生きづらさを持った子供たちが いることを知ってほしい

岡山県高機能広汎性発達障害児・者の親の会

## 高機能自閉症児のケアと自立をサポートする(岡山県)

# 小規模研修会

全国 岡山県立福祉文化センター 養育者の会  
ファイザー・製薬株式会社 企業文化部



「こうした障害を持っている子供がいることを現場の保育・教育関係者、行政機関の人たちに知ってもらいたい」と、自身の体験をもとに語る伊丹英徳代表

## 2001年度 助成対象プロジェクトの 団体名・活動内容・ 主な活動地域

### 新規助成

1	札幌市ホームレス者の健康支援と実態調査 北海道のホームレス者の健康支援を行う医師・医学生会の会(札幌市)
2	障害児・者とその家族のための生活支援サービス促進事業 サポート・ハウスばお(埼玉県蓮田市)
3	暴力被害女性支援「自然派レストラン・喫茶Saya-Saya」事業 地域生活支援ネットワーク女性ネット Saya-Saya(東京都荒川区)
4	薬物依存症の青少年のためのケア事業 特定非営利活動法人セルフサポート研究所(東京都江東区)
5	障害児・者に対するダンスワークショップ 特定非営利活動法人ポーロニア協会(東京都江東区)
6	DV被害女性及び同伴子の緊急一時保護事業 FICシェルター(東京都)
7	ひきこもりサポートプロジェクト 日本アットチルドレン協会(JACA)(東京都世田谷区)
8	山山介護支援事業 特定非営利活動法人自立支援センターふささとの会(東京都台東区)
9	思春期の自立と精神保健を育むピアサポート事業 ティーンズポスト(東京都町田市)
10	不登校の子どものための六浦共同生活舎生活体験合宿 特定非営利活動法人コンパスアカデミー(神奈川県横浜浜)
11	横浜町「さなぎの家」 なんでもSOS班 特定非営利活動法人さなぎ達(神奈川県横浜)
12	障害者の地域生活を支える民間レスパイト事業 コンビニの会(愛知県名古屋)
13	釜ヶ崎地域における「終わりなき」生活支援事業 木曜夜まわりの会(大阪府大阪市)
14	拘置所に収監中の薬物依存者へのインタベンション・プログラム フリーダム(大阪府大阪市)
15	日本在住外国人のための医療支援事業 社団法人まちづくり国際交流センター(奈良県橿原市)
16	不登校の子どもの健康と体力づくりを考える 神戸フリースクール(兵庫県神戸市)
17	高機能広汎性発達障害の子どものためのサポート事業 岡山県高機能広汎性発達障害児・者の親の会(岡山県岡山市)
18	10代の生と性を考える ドラマスクリーン三原 みはらおやこ劇場(広島県三原市)

### 継続助成

19	ショッピングセンターの機能を生かした福祉サービス 特定非営利活動法人自立支援センターファイティ(青森県上北郡下田町)
20	チャイルドライン千葉「子ども電話」 特定非営利活動法人子ども劇場千葉センター(千葉県千葉市)
21	川崎ホームレス保健プロジェクト「冬を生きぬき、春を呼びこめ」 川崎水曜/土曜の会(神奈川県川崎市)
22	中等教育を補う「コミュニティ・スクール」の実現をめざして 特定非営利活動法人イベラヒューマンサポート(静岡県三島市)
23	不登校児童・生徒の支援に係わるセミナー開催事業 特定非営利活動法人フレンジャー(兵庫県西宮市)
24	精神障害者のための「ついで」事業の普及充実活動 障害者を持ちながらも自立と納得いく社会参加を目指すふれあいセンター(沖縄県那覇市)

会が主催する「小規模研修会」で、就学前から学童前期の自閉症の子供たちの特殊性から障害をもつ子供へのアプローチの仕方について、実際例をあげながら講演をする安達潤先生。障害児をかかえるお母さん、保育・教育関係者など予定を上回る150人以上が集まり、真剣な面持ちで聞き入っていた。



に処理できない、感覚知覚の過敏性、コミュニケーション状況の理解が難しく対人的関わりが不自然、些細なことなどで気持ちが乱れてパニックを起こしやすいなどのことがある。伊丹さんの場合は自傷行為があったため早い機会に

「それまでは多少言葉が遅いぐらいでとくに変わったところもなかった息子が突然パニック状態になって泣き叫びだしたり、物を投げたりするようになり、それが次第にエスカレートして柱やテーブルの角に頭をぶついたり、家中のガラスを頭で割るといいうひどい自傷行為になってきました」

岡山県高機能広汎性発達障害児・者の親の会代表の伊丹英徳さんが、今は普通高校に通っている息子さんの異常に気がついたのは2歳半ぐらいのときだった。

高機能広汎性発達障害とは知的障害をほとんど持たない子供たちで、自閉症の特徴を持つことから高機能自閉症児とも呼ばれている。年齢や人によって症状の表れ方が違うが、大きな特徴としては複数の刺激を同時に

「それまでは多少言葉が遅いぐらいでとくに変わったところもなかった息子が突然パニック状態になって泣き叫びだしたり、物を投げたりするようになり、それが次第にエスカレートして柱やテーブルの角に頭をぶついたり、家中のガラスを頭で割るといいうひどい自傷行為になってきました」

岡山県高機能広汎性発達障害児・者の親の会代表の伊丹英徳さんが、今は普通高校に通っている息子さんの異常に気がついたのは2歳半ぐらいのときだった。

## 【ファイザープログラム】心とからだのヘルスケアに関する市民活動支援 2002年度 募集要項

1. 募集期間: 2002年7月1日～8月13日
2. 助成金: 1件あたり300万円を上限とし、本年度は15件程度の助成を予定しています
3. 助成の期間: 2003年1月1日～12月31日(1年間)とします
4. 対象となる分野: 特に次のようなプロジェクトを重視します。
  - 1) 成長過程にある人たちの心身のすこやかな発達を支援する活動  
→ おもに10代が抱える問題を克服し生きる喜びをもつことを助けるもの
  - 2) 社会的な受け皿がないために保健・医療を受けられない人たちの心身のケアを支援する活動  
→ 外国人、路上生活者、PTSD(心的外傷後ストレス障害)などの人々を対象とするもの
  - 3) 障害をもつ人や療養にある人たちの充実した生き方を支援する活動  
→ 身体障害、知的障害、精神障害などの人々、難病、長期療養にある人たちの社会生活を豊かにするもの
5. 問い合わせ先: ファイザー・製薬株式会社 企業文化部 03-3344-7524  
応募要項はホームページからダウンロードできます <http://www.pfizer.co.jp>

障害児・者の親の会を2年前に立ち上げた。

現在はボランティアスタッフ40人の協力を得て、障害を持つ子供たちの居場所をつくるための「仲間づくりの会」を定期的に開いたり、親同士の情報交換、また障害への社会的理解を深めるために保育・教育関係者を中心とした研究会や講演会などを行っている。「子供たちの孤独感を癒しながら、専門家の助言のもとで彼らの社会的スキルを育む」というのが伊丹さんのこれからの目標だ。